

「新しい東北」官民連携推進協議会
令和7年度運営委員会資料
－ 経団連の東北復興関連の取組み －

2026年3月16日

1. 災害復興特別委員会 宮城・岩手被災地視察

- 2025年5月、東日本大震災ならびに同年2月の大船渡市林野火災における被災地の現状や課題を把握し、今後の効果的な復興支援のあり方や防災に向けた取組みを検討するべく、**宮城県・岩手県において、災害復興特別委員会による被災地視察を実施。**

【視察概要】

○日程・訪問先

- ✓ **2025年5月22日（木）於 宮城県・岩手県**
 - ・気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館 視察
 - ・菅原茂 気仙沼市長との意見交換
 - ・東日本大震災津波伝承館
(いわてTSUNAMIメモリアル) 視察
 - ・高田松原津波復興祈念公園 視察
(震災遺構旧道の駅タピック45/防潮堤/
奇跡の一本松等)
 - ・陸前高田市高台造成地 視察
 - ・佐々木拓 陸前高田市長との懇談
- ✓ **2025年5月23日（金）於 岩手県**
 - ・洲上清 大船渡市長との意見交換
 - ・大船渡市魚市場 視察
 - ・JR大船渡線BRT 乗車
 - ・三陸鉄道震災学習列車 乗車



○参加者（※役職は当時のもの）

富田 哲郎	経団連審議委員会議長／災害復興特別委員長
永野 毅	経団連副会長／危機管理・社会基盤強化委員長
佐久間 美奈子	経団連危機管理・社会基盤強化委員会企画部会長
宇田 優香	経団連1%クラブ座長

ほか 計15名

1. 災害復興特別委員会 宮城・岩手被災地視察

(1) 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館

- 津波で4階まで浸水した気仙沼向洋高校旧校舎を「目に見える証」である震災遺構として整備。
- 震災の記憶と教訓の伝承や、防災教育の拠点として活用し、「津波死ゼロのまちづくり」に寄与することを目指す。伝承館を案内する語り部活動には中高生も参加し、震災への警鐘を鳴らし続ける。



【菅原気仙沼市長からの説明】

- ✓ 「津波死ゼロ」の実現に向けて、津波避難ビルの指定や物資の分散備蓄に取り組んでいる。
- ✓ 公助だけでなく自助・共助の強化に向け、自主防災組織や防災リーダーの育成が必要。津波総合防災訓練も毎年11月に実施している。

(2) 陸前高田市高台造成地

- 陸前高田市では、最高12.5mの二重の防潮堤の整備とともに、公共施設・集客施設を高上げた高台に集約。半径300mの範囲に中心市街地を設定したコンパクトシティを形成。



【佐々木陸前高田市長からの説明】

- ✓ コンパクトシティを形成した一方で、利用率は未だ区域の45%にとどまっている。
- ✓ 新たな住民の誘致や地域の魅力発信に注力していく必要。

(3) 大船渡市との意見交換

- 2025年2月26日に大船渡市にて林野火災が発生し、3月25日に激甚災害指定。延焼範囲は3370haにもおよび、**農林業・水産業・観光業をはじめとする地域産業に深刻な打撃を与えた。**



△市街地近くの焼け跡



【瀨上大船渡市長らからの説明】

- ✓ 仮設住宅が完成し、避難所は早期に解消された。市からの避難指示に住民が速やかに従い、被害が最小限となった。
- ✓ 被災した中小企業への補助や、農林水産業の復旧支援に取り組んでいる。

(4) 大船渡市魚市場

- 水産業は市の基幹産業でありながら、風評被害による販売不振、労働力不足など様々な課題を抱えるが、課題解決を図りつつ**水産業のスマート化**を図るため、**復興交付金を活用してICT化を進めている。**



【大船渡市魚市場佐藤専務からの説明】

- ✓ 入船・入荷予定、計量結果、衛生状況から入札結果まで、タブレットで完結。
- ✓ 市場運営の効率化、衛生・鮮度管理の強化が実現。

(5) JR大船渡線BRT

- 津波被害や原発事故の影響によってJR線沿岸線区約400kmが不通となり、早期復旧が求められる中、スピーディに安全で便利な高速輸送サービスを提供できるようBRT（Bus Rapid Transit）を運行開始。
- 鉄道とBRTの接続駅である盛駅では鉄道敷がBRT専用道となっており、**利用者の利便性を確保**。



【JR東日本からの説明】

- ✓ BRTは鉄道のような専用線路ではなく道路で運行できるため、柔軟な路線設定が可能。
- ✓ 公共施設や商店街に近い場所にも停車できるため、利便性と柔軟性を兼ね備えている。

△大船渡線BRT盛駅

(6) 三陸鉄道

- 震災により鉄道や駅舎に壊滅的な被害を受けたものの、震災発生から5日後には一部復旧した。三陸鉄道社員や地域住民が当時の様子や復興の過程を開業する「震災学習列車」を運行。



△車内にて黙とうする一行



△車窓から望む大船渡市山林火災の被害

2. 東北・能登復興応援フェスタ2025

- 経団連では、東日本大震災・能登半島地震からの復興支援の取り組みとして、ポータルサイト「東北・能登復興応援フェスタ」を開設。
- 被災地製品の消費拡大や観光振興、風評の払拭等を目的に、会員企業・団体が開催する東北・能登関連イベント等を一元的に発信。
- 東北・能登を満喫できるツアーや各県の名産品などを掲載する関連団体のサイトも併せて紹介。

○掲載内容例


- ・ 社員食堂での東北・能登産品活用
- ・ 東北・能登特産品を販売するマルシェの開催
- ・ 東北・能登応援ツアー・復興ツーリズム
- ・ 東北・能登に関する各種イベント 等



○イベント掲載数

- ・ 2026年2月時点で60件のイベントを掲載。



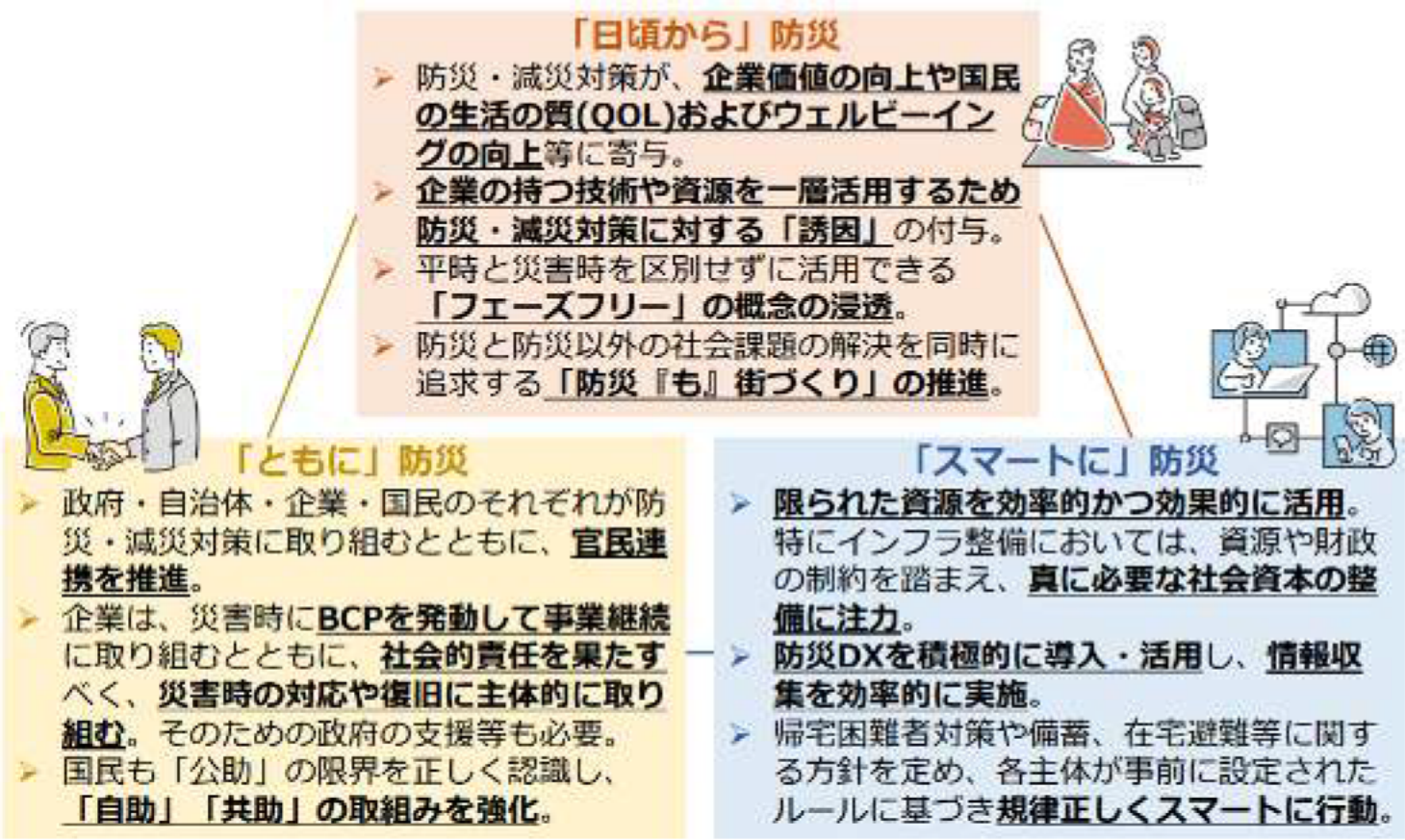
詳細は右記二次元コード参照 
<https://tohoku-fukkou-fes.jp>



3. 提言「巨大地震を見据えた防災・減災対策の充実に向けて～防災は「日頃から」「ともに」「スマートに」～」の公表

■ 日本各地で災害が頻発化・激甚化する中、減災目標を定めた「首都直下地震緊急対策推進基本計画」の見直しが進められていることや、企業で事業継続計画(BCP)の改訂を急ぐ動きが顕著になっていること等を踏まえ、2025年6月に提言「巨大地震を見据えた防災・減災対策の充実に向けて」を公表。

○防災・減災対策を進めるための基本的な考え方



詳細は右記二次元コード参照
(<https://www.keidanren.or.jp/policy/2025/039.html>)

